

(様式8)

公共事業再評価調査

(再評価後 5年経過 の事業箇所)

評価確定日(平成16年8月30日)

事業コード	H16-建-再-1		区 分	国庫補助・県単独
事業名	国道道路改築事業		部 局 名	建設交通部
事業種別	一次改築		課 室 班 名	道路建設課 国道班 (tel) 2485
路線名等	一般国道341号		担当課長名	道路建設課長 佐藤 紀一
箇所名	仙北郡田沢湖町鍬畑		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 善昭
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	3	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	目標コード	2	施策目標名	県管理国道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H2 ~ H18 (17年)	総事業費	93 億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	全体延長L=3.8km、幅員(構成)W=12.0m(2.5~1.5~6.5~1.5)					
事業の立案に至る背景	<p>国道341号は、鹿角市と本荘市を連絡する幹線道路で、沿線には八幡平、玉川温泉、玉川ダム、田沢湖、田沢湖高原等の主要な観光拠点が存在し、観光道路の機能も有する。</p> <p>鍬畑工区の現道は、玉川源流部の急峻な山地区を主に鍬畑ダム(秋扇湖)に沿っている道路のため、急カーブや幅員狭小区間が連続しており、大型観光バスがすれ違いできないほど、通行に支障が生じている。また異常気象時(時間雨量30mm、連続雨量100mm)には、落石等が発生する危険があるため事前通行規制区間となり、安全で円滑な交通の確保が難しい状況であった。</p>					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・バス交通の円滑化(大型車すれ違い困難区間の解消) ・安全な交通環境の確保(防災点検要対策箇所(1箇所)の解消(落石)、事前交通規制区間の解消(落石)) ・地域づくりの支援(地域間交流・連携の支援) ・新幹線・特急停車駅へのアクセス向上(JR田沢湖駅) 					
事業費内訳	(単位:千円)					
		計画時	再評価時	増減	理由等	
事業内容	事業費	11,200,000	9,276,910	1,923,090		
	経費内訳	工事費	9,700,000	7,969,238	1,730,762	トンネル・橋梁の計画を現道拡幅に変更
		用補費	374,000	274,962	99,038	
		その他	1,126,000	1,032,710	93,290	
	財源内訳	国庫補助	6,160,000	5,102,300	1,057,700	
		県債	2,016,000	1,669,000	347,000	
		その他				
一般財源	3,024,000	2,505,610	518,390			
事業内容	詳細設計 用地測量 用地補償 改良工事	同左				
事業の経緯	平成9年に188m、平成10年に312m、平成12年に740m、平成14年に1,400mを供用して大型車すれ違い困難区間を解消している(平成15年度までに2,640m供用済み)。					
進捗状況	今年度末までに全体事業費93億円の内96%にあたる90億円を投資済みである。また、用地は全て買収済みである。 今年度、200mを供用予定としており、全体延長3,800mの内75%にあたる2,840mが供用済みとなる。					
長期継続の理由	ダム湖と山に挟まれた急峻な地形であり、山岳トンネルやダム湖を跨ぐ長大橋が必要になるなど事業規模が大きいことと、冬期は積雪により工事期間が制約されていることが長期間要している理由である。					
上位計画での位置付け	「あきた21総合計画」における施策、「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業として位置づけられている。					
事業を取り巻く情勢の変化	平成11年度より国道341号の冬期通行止め区間の試験除雪(田沢湖側)及びP&BR <small>パ-ア-ブ-ア-イ</small> が実施されており、P&BR利用者は年々増加している(H11:10,200 H15:16,500人)。昨年度には、残りの冬期閉鎖区間においても試験的に除雪が実施されており、対象路線の整備による相乗効果が期待される。					

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止・終了
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容
必 要 性	当該区間は未改良区間（幅員5m）であり、大型観光バス等のすれ違いができないため、観光シーズンには渋滞が発生する等、通行に支障が生じている。
緊 急 性	本路線は、異常気象時に落石等の危険等のため事前通行規制となり、安全で円滑な交通の確保が難しい状況である。
有 効 性	<p>[手段の妥当性]（代替案立案等の可能性） 代替案立案の必要性は生じていない。</p> <p>[整備効果] 一部供用済区間で、大型車すれ違い困難区間を解消。 国道341号が整備されることで、十和田八幡平周遊コースの選択肢が増え、潜在的観光需要を掘り起こせる。 平成11年度より、国道341号の冬期通行止め区間の試験除雪及びP&BRを実施しており、利用者は年々増加（10,200 16,500人）、対象路線の整備による相乗効果が期待される。</p>
効 率 性	<p>[費用対効果] 事業の費用対効果は全事業で1.5、残事業で13.5であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 120億円（全事業） 8億円（残事業） ・総便益の現在価値 174億円（全事業） 108億円（残事業） 計画交通量は3,800台/日となっている。</p> <p>[コスト削減の取組状況] 鎧畑4号トンネル（100m）及び鎧畑4号橋（30m）の計画を現道拡幅に変更し、約19億円のコストを削減している。</p>
熟 度	<p>[地域の状況] 平成元年より毎年、『角館大鰐間国道整備促進期成同盟会』から早期完成の陳情を受けている。</p> <p>[事業進捗の見込み] 残区間は約960mの現道拡幅で用地取得も完了しており、平成18年度の全線供用を目指して事業を進める。</p> <p>[環境対策] 自然公園区域外であることや地形の改変が比較的少ないこと、現地調査や地元からも希少種について特に情報がないこと等から、工事着手前及び着手後の環境調査は実施していない。</p>
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 中止 各観点の評価結果から、事業を推進する上で支障はないと考える。

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針及びその理由）

残りの現道拡幅を継続施行し、平成18年度の全線供用を図ると共に、再生材の使用等さらなるコスト削減に留意する。
--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (20)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16 - 建 - 再 - 1) 箇所名 (鎧畑)

適用事業名 国道道路改築事業(地域間交流・連携促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	2次改築事業については該当しない。
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計		15			
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	5	5	
	・県の主要プロジェクト	なし	0		
	・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業				
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	0	
		位置づけなし	0		
	特有の課題の有無	あり	5	5	
老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	なし	0			
計		15	10		
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路	第1次輸送路	10	0	
		第2次輸送路	8		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	県内90分交通体系、全国1日 交通圏等に関連	あり	10	10	広域的観光ネットワーク支援 (八幡平国立公園)
		なし	0		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10	
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計		30	20		
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.5以上	5	5	
		1.0以上~1.5未満	3		
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	5	3	
		1,000台/日以上~5,000台日/未済	3		
		1,000台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
		なし	0		
	事業中止による影響	既投資額の損失大	5	3	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計		20	16		
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	10	97%
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
		未着手	0		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	100%
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	未着手	0			
計		20	20		
合計			100	78	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	78	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		